

に星が煌^{きら}めき、流れ星が流れると、願い事をした。

誕生日当日、ノラはみんなに囲まれていた。ノラの為にバースデーケーキも用意されていた。自分がその場に不要な存在だと気づいたセレナは汗に濡^ぬれた包装紙^{ほうそうし}に包^{つつ}まれたプレゼントを手にし、一步も踏み出せず、途方^{とほう}に暮^くれて隅^{すみ}の方に立っていた。そして、それに気づいたノラと目が合った瞬間、恥^はずかしくなり、プレゼントを持ったまま、その場から逃げ出し、一気に秘密基地に駆け上った。

息は切れ、頬は赤く燃えているようだった。灰青色^{はいあおいろ}の空から大雨が降ってきた。数え切れ